

月刊南ア・ニュース (2009年6月)

在南ア日本国大使館

1. 内政関連

●国民議会始まる

3日、ズマ大統領による新内閣発足後初めての国民議会がケープタウンで開会。ズマ大統領は冒頭演説の中で、国内貧困問題の解消に向け、与党 ANC の掲げる五つの優先課題を中心に向こう五年間の取組への決意を表明し、南ア国民が一丸となって努力することの重要性を強調した。失業対策としては、年末までに 50 万、2014 年までに 400 万の雇用創出を目指すことが発表された。

●青年の日

16日、アフリカンス語の強制教育に対する反発として黒人学生からはじまったソウェト蜂起の犠牲者の追悼記念集会在各地で開催された。この日は“青年の日”に指定され祝日となっている。ズマ大統領はヨハネスブルク東にあるハンターズフィールドスタジアムでスピーチを行い、貧困撲滅、農村開発、薬物対策、犯罪対策などに取り組んでいく決意を発表した。また、NYDA (National Youth Development Agency 国家青年開発庁) を立ち上げ、若者の雇用創出に真剣に取り組む構えも表明した。

●国公立医のストライキ

国公立病院に勤める医師等が賃金の値上げを求めてストライキに踏み込んだ。法律上、医師によるストライキは禁止されているが、賃上げに対する政府の対応の悪さに堪りかねた結果と見られる。ストライキはクワズール・ナタール州と西ケープ州で断続的に始まり、その後全国に広がった。6月末には9州中5州の国公立病院が完全に業務を停止する事態に至り、診察を断られた患者が死亡するケースも発生した。政府はそれぞれの医師の経験に応じ18%から60%の賃金値上げを提示したが、医師側は一律50%の賃金値上げを要求しており、以前決着は付いていない。

2. 外政関連

●ゴールドストーン判事のマッカーサー賞受賞

1日、南アのゴールドストーン判事はマッカーサー基金から賞を受け、ズマ大統領は祝意を表明した。同賞の受賞者は、コフィ・アナナン前国連事務総長に続いて二人目。ゴールドストーン判事は、90年代前半の南アの民主化移行期に公共の暴力と脅迫を防止する委員会の委員長として活躍し、国際旧ユーゴ裁判所の判事を務めた経歴を持つ。ズマ大統領は、ゴールドストーン判事が最近のガザ紛争に関して人権侵害問題の調査ミッション代表に選ばれたことについても、歓迎する旨表明している。

●世界経済フォーラム（アフリカ版ダボス会議）の開催

10日、世界金融危機のアフリカへの影響と題して、世界経済フォーラムがケープタウンで開催された。南アからはズマ大統領、モトランテ副大統領、ヌコアナ＝マシャバネ大臣等が参加。会議開始に際し、ズマ大統領は金融危機によるアフリカへの悪影響を緩和し、先進国が保護主義に走る兆しがあることに警鐘をならし、IMF や世界銀を中心とした国際金融システムの改善を呼びかけた。ヌコアナ＝マシャバネ大臣はアフリカ関係や水問題関係について発言した。

●エブラヒム副大臣のキューバ訪問

24日、エブラヒム国際関係・協力副大臣はキューバを訪問し、第7回南ア・キューバ統合対話メカニズム会議を主催した。2009年は南ア・キューバの外交関係樹立15周年にあたり、エブラヒム副大臣は南アとキューバの関係につき、マンデラ元大統領の演説を引用して強力な友好関係を強調し、南アは人間の尊厳や基本的人権を漸進的に外交方針として取り入れる旨述べた。また、南アはキューバのIAEA事務局長選挙に関する支持につき謝意を表明。本年後半には外務大臣による第6回二国間委員会が予定されている。

●マダガスカルに関する SADC 特別首脳会議

19日から20日、ズマ大統領の主催でマダガスカルに関するSADC特別首脳会議がヨハネスブルグで開催された。参加したSADC首脳陣は、マダガスカルに対する軍事介入というオプションを明確に排し、平和的な交渉による政治的解決を推奨、シサノ前モザンビーク大統領をマダガスカル問題の調停者に任命した。ラヴァルマナナ前大統領は会議後のコメントを控えたが、情報筋によれば、同大統領はSADCがクーデターを許容しないというより強いメッセージを発出することを望んでいたという。ラジョリナ暫定政権は、SADCから承認されていないため、同会議に参加していない。

●ヌコアナ＝マシャバネ大臣の訪米

22日から25日にかけて、ヌコアナ＝マシャバネ大臣は訪米し、スーダンの包括的和平合意の実施における国際社会の役割を話し合う米政府主催会議と、世界金融危機に関する国連ハイレベル会議に参加。スーダンの会議では、バシール大統領に対する国際刑事裁判所の逮捕状を受けた捜査の一時凍結を求めるAUの共通ポジションを繰り返した。金融危機に関する会議では、G77の一員として、G20サミットにおける決議の速やかな実施、特に脆弱な経済を支援するための資源供給の実施を求めた。この他、ヌコアナ＝マシャバネ大臣は潘基文国連事務総長と会談を行った。

3. 経済関連

●経済成長

南アフリカは17年ぶりの不況に入った。当地四大銀行のうち、Nedbank と Rand Merchants Bank は、今年の経済成長率をマイナス2%、世界銀行はマイナス1.5%と予測している。しかしながら、7,870億ランドに上るインフラ関連歳出によって、世界不況の影響が緩和されている。南ア中央銀行は経済指標のいくつかに成長サイクルに入った兆しが見えると発表。6～12カ月後の成長を示す中銀の複合指標は再び上向き始めている。

●経常収支

南アの経常収支赤字は2008年第4四半期のGDP比5.8%から2009年第1四半期にGDP比7%へと増加した。Nedbankは南アの輸出志向型製造業と鉱業部門は引き続き低迷し、貿易収支に影響を与えると予測している。

●インフレ

消費者物価指数(CPI)は5月に前年同月比で8%上昇し、4月の8.4%から下がったが、予測値の7.9%を上回った。中銀はインフレが2010年第2四半期になってようやくインフレターゲットの3～6%に収まると見ている。

●政策金利

南ア中央銀行は、原油価格と電気料金の値上がり、賃金及びインフレ率高騰が予測されることを受けて、6月の金融政策委員会で、政策金利7.5%の維持を決定した。BUSA(Business Unity South Africa)は、中銀がさらなる政策金利の引き下げを実施しない可能性が高くなったことに懸念を表明している。

●雇用

南ア統計局の四半期雇用調査(QES: Quarterly Employment Survey)によると、第1四半期にフォーマル経済は17万9千人分の雇用を喪失し、QESは昨年同期比で1%縮小した。専門家は企業のコスト削減などにより、今年は40万人の雇用が失われると警告している。第1四半期に経済成長がマイナス6.4%となったことを受けて、第2四半期はさらなる雇用喪失が見込まれる。

●製造業生産高

南ア統計局によると、製造業生産高は4月に前年同月比で21.6%落ち込んだ。この落ち込みは予測よりも大きかったが、これには4月の祝日数の多さも影響している。南アの自動車部門が最大の影響を被り、前年同月比で49%まで落ち込んだ。スタンダード銀行は製造業部門の回復は今年第4四半期以降になると予測している。

●自動車販売

南ア自動車生産者協会(Naamsa)によると、国内新車販売台数は5月に前年同月比で34.7%落ち込み25,819台となった。1月から5月にかけて、新車販売台数は前年同期比で35.8%落ち込み15万7,141台となった。他方、自動車輸出数は5月に前年同月比で41.3%落ち込んだが、これは主要輸出先の欧州、日本、米国市場の需要低迷による。

●消費動向

消費は09年第1四半期に4.9%縮小し、3四半期連続で落ち込んだ。中央銀行はこれを

過去 13 年で最大の落ち込みと発表。世帯ごとの可処分所得に占める負債の割合は 08 年第 4 四半期の 76.3%から 09 年第 1 四半期に 76.7%へと増加し、小売り販売は 4 月に前年同月比で 6.7%落ちこんだ。当地投資銀行 Investec は小売り販売の低迷は、失業が拡がりつつあることを示している」と指摘する。失業の増加、給与の減少、資産の減少による所得の減少は、消費者の購買意欲を減退させている。

●投資

国内総固定資本形成（住宅投資・設備投資・公共投資等）は 08 年第 4 四半期の 3%から 09 年第 1 四半期に 2.6%へと後退した。公共企業による投資は 08 年第 4 四半期の 4.1%から 09 年第 1 四半期に 6.4%へと増加したが、これは主に電力公社エスコムと運輸公社トランスネットの支出による。しかし、全投資の 70%にのぼる民間投資は低迷している。

●景況感

南ア商工会議所（SACCI: South African Chamber of Commerce of Industry）のビジネス自信指数(BCI)は 4 月の 81.9 ポイントから 5 月に 81.8 ポイントへと若干下がった。これは、09 年 1 月～4 月にかけて企業倒産件数が 47%まで上昇したこと、貿易と小売りが落ち込みをみせたことによる。SACCI は製造業生産の落ち込みは将来的な投資と雇用に深刻な結果をもたらすと警告する。BCI は 2006 年 12 月の 103.5 ポイントをピークに、今年 3 月に 78.9 ポイントにまで落ち込んだ。

BER(The Bureau for Economic Research)の BCI は第 1 四半期の 27 ポイントから第 2 四半期に 26 ポイントとなり、南ア経済の低迷は緩やかになりつつあることを示している。2007 年末の 83 ポイントのピークから下落を続けてきたが、17 年前の不況時の 12 ポイントよりはまだ高い水準を維持している。

●歳入

南アの歳入は不況により、2 月の財政演説の目標値 6,950 億ランドを 80 億ランド以上下回りそうである。エコノミストは政府が歳出のためにさらなる借入をしなければならず、財政赤字は予測値の GDP 比 3.9%から 4.5～5%へと膨らむと指摘している。

4. 広報・文化

●ハウテン州政府、コンフェデレーションズ・カップの輸送対策に 9 千万ランドを支出

10 日、ハウテン州政府は、6 月 14 日から開催されるコンフェデレーションズ・カップのうち同州で開催される試合会場への輸送対策として 9 千万ランドを支出することを明らかにした。ハウライドと呼ばれる 3000 台のミニバスに加え、450 台のバスにより、スタジアム周辺のパーク&ライドステーションからスタジアムへファンを輸送する。同ステーションには警察官、救命士、救急車等の緊急対策施設が配備され、同州により 10 万枚のパーク&ステーション・マップが配付される予定。

●ワールドカップへのカウントダウン

ズマ大統領は、FIFA・W 杯開催 365 日前となる 11 日、ケープタウンのグリーンポイント・スタジアムにて開催されたカウントダウン・セレモニーに出席した。スポーツ・リクリエーション大臣、ウエスト・ケープ州知事、ケープタウン市長、FIFA 及び南ア・ワールドカップ運営委員会関係者が出席する中、同大統領はスタジアム建設に携わる労働者への謝辞を中心としたスピーチを行った。また南ア・ワールドカップ運営委員会のダニージョーダン CEO は、グリーンポイント・スタジアムはロベン島、テーブルマウンテンと並ぶランドマークとなるだろうと述べた。

●コンフェデレーションズ・カップ開幕

14 日、ヨハネスブルグのエリスパークにおいてコンフェデレーションズ・カップ開会式及び開幕戦（南ア対イラク）が行われた。南ア人歌手及び現地校の青少年による開会式イベントが行われ、開会式及び開幕戦は大きな混乱はなく終了した。

●FIFA、空席が目立つコンフェデレーションズ・カップに無料チケット配付

17 日、FIFA は、スタジアムを埋めるための対策を検討していると発表し、南ア国民に無料チケットを配付する可能性を明らかにした。14 日に行われた開幕 2 試合（南ア対イラク戦、スペイン対ニュージーランド戦）においてスタジアムに空席が目立ったことを受け、FIFA ブラッター会長は、南ア・ワールドカップ運営委員会がチケットを購入することのできない地元の子ども達などにチケットを提供

することもできたと同委員会を批判。これを受けて、売れ残りのチケットはその後地元の子供達に無料で配られた。

●FIFA 会長、ブブゼラ禁止を否定

18日、FIFAブラッター会長は記者に対し、FIFAがコンフェデレーションズ・カップ及びワールドカップにおいてブブゼラ（大きな音の出る筒状の笛）の禁止を要請するとの考えを否定した。ブブゼラに関しては、その音により開会式でのスピーチが聞こえないなど放送局側から批判が出ていたが、同会長は、FIFAとして観客にスタジアムで音を立てるなど言うことはできない旨述べ、ブブゼラの禁止を否定した。

●コンフェデレーションズ・カップは10点中7.5点

29日、FIFAブラッター会長は記者会見において、コンフェデレーションズ・カップは成功裏に終了し、10点中7.5点を与えると述べた。他方、45万人の観客が予想される来年のワールドカップに向け、交通、宿舎等改善しなければならない課題がまだあるとも発言し、特に交通に関して、FIFA事務総長のジェローム・バルケは、試合終了後多くのファンがハウライド等に乗車するまでに数時間かかり、パーク&ライド・システムが効果的に機能していなかったと述べるとともに、ワールドカップ開催まで11か月をかけて改善策を見いだしていきたい旨述べた。

●日本代表チーム、ジョージをキャンプ地に

28日、サッカー日本代表の岡田武史監督は2010年FIFA・W杯のベースキャンプ地に、南ア南部のゴルフリゾート地ジョージを第一候補に絞り込んだことを明らかにした。コンフェデレーションズ・カップ中、その他の候補だったケープタウン、ダーバンとともに視察した岡田監督は、施設、環境が整っており、気候もヨハネスブルクより寒くなく、雨も少ないと、ジョージを選んだ理由を話した。ジョージはW杯開催都市のケープタウン、ポートエリザベスの中間に位置。2005年には女子ゴルフの国別対抗戦、第1回W杯が開かれ、宮里藍と北田瑠衣が組んだ日本が優勝した。12月4日にケープタウンで行われるW杯本大会組み合わせ抽選会後に正式契約を行う。

5. 警備・治安

●ポートエリザベス・サッカー・スタジアム武装強盗事件

16日、2010年FIFA・W杯で使用予定の東ケープ州ポート/エリザベスのネルソンマンデラ・ベイ・スタジアムにおいて武装強盗事件が発生した。武装強盗らは、この日開催されたラグビー国際大会終了後、同スタジアム6階のバーに押し入り、居合わせた客の現金を奪って逃走。怪我人はなかった。警察部隊は会場警備を既に解除していたが、通報を受け被疑者5人を逮捕した。48,000人収容の同スタジアムは6月初めに完成し、16日は最初の国際試合だった。同スタジアムは当初コンフェデレーションズ・カップ・サッカー大会でも使用予定だったが、完成見込みが立たず、FIFAが昨年コンフェデレーションカップ使用予定スタジアムリストから外した経緯がある。

●ダーバン・ラグビー観戦者の負傷事件

ダーバンの医療関係者によると、20日夜、British and Irish Lions（「B」：ラグビーチーム）がSpringboks戦に敗れた後、ダーバンのビーチフロントにあるナイトクラブの外で小競り合いとなり「B」サポーターが負傷したと語った。また、数名のイギリス人観光客が金品を奪われる事件も発生した。ダーバンのある女性は、金品を奪われる被害に遭った複数のイギリス人観光客を助けたと証言している。